



京都大学

オンラインセミナー

京大人文学教室 2021

村上春樹の物語

01 2021/10/26 (Tu) 18:00-19:30

村上春樹と
子どもを持たない主人公

三宅 香帆
書評家

02 2021/11/9 (Tu) 18:00-19:30

村上春樹と
自閉スペクトラム症者
グレーゾーン

横道 誠
京都府立大学 文学部 准教授

03 2021/11/30 (Tu) 18:00-19:30

村上春樹における
大きな物語と小さな物語

河合 俊雄
京都大学 こころの未来研究センター センター長・教授

04 2021/12/14 (Tu) 18:00-19:30

「レキシントンの幽霊」に
導かれて
—1990年代のアメリカから読む—

武内 佳代
日本大学 文理学部 教授

ライブ配信+
見逃し
録画配信

京大人文学教室
オンライン (Zoom) 開催

- パソコンなどの端末、ネット環境が必要です。
- クレジットカードで決済いただいた方には、視聴方法について開催前日までに申込時のご登録アドレスにご連絡いたします。
- kensyu@kyodai-original.co.jp からのメールを受信できるように設定してください。
- ライブ配信後、後日、オンラインサイト上で録画配信します。(視聴には申込が必要です。2022年1月31日まで視聴可能)
- お支払いはクレジットカードのみとなります。その他のお支払方法は承っておりませんので、ご了承ください。

対象

村上春樹に関連する内容に興味のある方、人文・社会科学分野に興味のある方、社会人・学生問わず
どなたでも参加可能

受講料

各回: **1,500円**(税込)、全4回(一括): **5,400円**(税込)

申込
方法

ホームページよりお申し込みください。
<https://www.kyodai-original.co.jp/open-academy/program/?no=41>



申込
締切日

各回、**開催日の前日**
※申込締切日を過ぎてのお申込みについては、見逃し録画配信のみご視聴いただけます。

主催 京大オリジナル株式会社 共催 京都大学産官学連携本部、京都大学こころの未来研究センター、京都大学人社未来形発信ユニット

問合せ 京大オリジナル株式会社 ナレッジプロモーション事業部 mail▶kensyu@kyodai-original.co.jp

京大人文学教室 2021

京都大学は多数のノーベル賞受賞者を始めとする理系のイメージが強いかもかもしれませんが、京都大学の人文・社会科学分野は非常に長い歴史と顕著な研究成果を挙げています。「人間とは何か、社会とは何か」という根本的な問いに対して、幅広い分野での研究が進められています。

「京大人文学教室」は、そのような「人間とは何か」という人類の最も根本的な問いに対して京大人文学研究の成果と知見を、人文学に深い興味をお持ちの方や学び直したいとお考えの方、自らの進路の参考にしたいという大学生や高校生の方に、お届けしようとするものです。

第2回となる今回は、京都で生まれ、いまや世界的な作家となった『村上春樹』を取り上げます。

ノーベル文学賞候補として毎年名前が挙がり、作品がリリースされるたびにベストセラーになるも、世間においても文学界においても様々な評価がなされています。「京大人文学教室」では、そんな村上春樹の真価を問うべく、4名のトップクラスの講師が、縦横無尽に作品を読み解きます。作品・物語の解釈は勿論、村上春樹自身の物語にも迫り、独自の解釈を披露します。村上春樹の専門を異にする研究者の、最新の研究や持論に触れることで、皆様の中でも、新しい村上春樹の物語の1ページが開かれる機会になることと思います。



01 2021/10/26 (Tu) 18:00-19:30

三宅 香帆

書評家

専門 国文学

村上春樹と子どもを持たない主人公

村上春樹は「子を持たない主人公」を多く描いてきました。子どもはなくて、でも彼女や妻はいて、多くは稼げないけれどやるべき仕事があって、スパゲッティを茹でている——村上作品の主人公のイメージといえばこんな感じではないでしょうか。しかしとくに初期の作品を見ると、意外にも、登場人物たちの言葉には子を持つことへの葛藤が滲み出ているのです。本講義では、村上春樹の初期作品を中心に、親になるというテーマを追いかけてみます。



02 2021/11/9 (Tu) 18:00-19:30

横道 誠

京都府立大学 文学部 准教授

専門 文学・当事者研究

村上春樹と自閉スペクトラム症者グレーゾーン

村上春樹の人柄や作品が「自閉的」という指摘は、彼が登場してまもないころから批評家たちによってなされてきました。しかし、この「自閉的」はどこまで正確な表現なのでしょう。かつて自閉症(知的障害あり)やアスペルガー症候群(知的障害なし)と呼ばれていた自閉症システムの発達障害は、現在では自閉スペクトラム症として統一的に理解されています。村上春樹のさまざまな発言や作品から、村上あるいは村上作品がどのくらい「自閉スペクトラム症」と重ねて理解できるものなのかを説明します。最終的に、村上ワールドを「自閉スペクトラム症グレーゾーン」として新たに体験しなおせる準備を提供します。



03 2021/11/30 (Tu) 18:00-19:30

河合 俊雄

京都大学 こころの未来研究センター センター長・教授

専門 臨床心理学

村上春樹における大きな物語と小さな物語

村上春樹の作品では、『1Q84』や『騎士団長殺し』にも見られるように、悪や暴力などの個人を超えた「大きな物語」が問題になっている一方で、個人の恋愛や出会いなどの「小さな物語」がテーマになる。また長編のなかに、短編のように小さな物語が挿入されていることも多い。村上春樹におけるこのような「大きな物語」と「小さな物語」の関係について、世界と個人のこころの関わりという視点でも検討したい。



04 2021/12/14 (Tu) 18:00-19:30

武内 佳代

日本大学 文理学部 教授

専門 日本近現代文学

「レキシントンの幽霊」に導かれて —1990年代のアメリカから読む—

村上春樹文学のもっとも挑戦的な、そして魅力的な企ての一つに、言葉にしがたいような物事を「言葉」にする、ということがあります。たとえば私たちの喪失による悲嘆や、ある種の深いトラウマは、この「言葉にしがたいような物事」に相当するでしょう。世界的なコロナ禍に直面している現在(いま)、まさにそうした物事が日常化しているのは言うまでもありません。そこで本講義では、小説「レキシントンの幽霊」(1996年)を取り上げ、1990年代のアメリカが直面した大いなる悲嘆やトラウマをふまえながら、春樹文学の「言葉」の底知れない可能性に迫りたいと思います。ぜひ作品を一読してご参加ください。